

# 長期入院児童生徒に対する教育支援に関する実態調査の結果(概要)

## I 調査の目的

近年、医療の進歩等による入院期間の短期化や、短期間で入退院を繰り返す者、退院後も引き続き治療や生活規制が必要なために学校への通学が困難な者への対応など、入院等をして治療を受けている児童生徒等を取り巻く環境は大きく変化している。

本調査は、こうした状況を踏まえ、平成25年度中に病気やけがによって入院した児童生徒に対して行われた教育等の実態を把握するものである。

## II 調査の対象

### 1. 期間

平成25年4月1日～平成26年3月31日

### 2. 機関

- 国公立の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校
- 都道府県及び市町村の教育委員会

## III 結果の概要

### 1. 病気やけがによる入院により転学等をした児童生徒

- 病気やけがによる入院により転学等をした児童生徒は約5,000人(延べ)。
- 小・中学校からの主な転学先は、県内の特別支援学校。他方、高等学校では、主に特別支援学校以外の学校に転学等をするか、若しくは退学している。
- 小・中学校では約7割が復籍するが、そのうち約1割は、その後再度転学等をしている。
- 在籍児童生徒が転学等をした小・中学校は約3,600校。全小・中学校の約1割に当たる。

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校 (小学部)	特別支援学校 (中学部)	特別支援学校 (高等部)
児童生徒数	2,434 (0.04%)	1,609 (0.05%)	231 (0.01%)	270 (0.72%)	148 (0.50%)	57 (0.09%)
学校数	2,205 (10%)	1,403 (13%)	199 (4%)	176 (19%)	112 (12%)	61 (7%)

※括弧内は、全児童生徒又は全学校数に占める割合(出典:「学校基本統計」(文部科学省))

### 2. 病気やけがにより長期入院(年間延べ30課業日以上)した児童生徒

- 病気やけがにより長期入院した児童生徒は約6,300人(延べ)。
- 在籍児童生徒が長期入院した小・中学校は約2,400校。全小・中学校の1割弱に当たる。

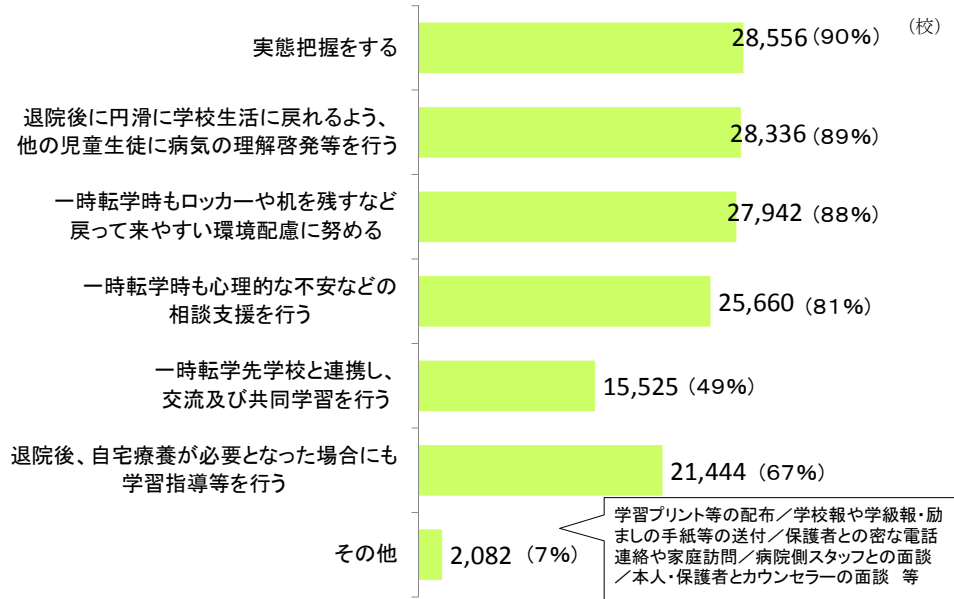
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校 (小学部)	特別支援学校 (中学部)	特別支援学校 (高等部)
児童生徒数	1,478 (0.02%)	1,291 (0.04%)	1,124 (0.05%)	1,175 (3.1%)	903 (3.1%)	378 (0.6%)
学校数	1,287 (6.1%)	1,099 (10.3%)	951 (18.9%)	211 (22.4%)	186 (19.9%)	235 (25.2%)

※括弧内は、全児童生徒又は全学校数に占める割合(出典:「学校基本統計」(文部科学省))

### 3. 入院により転学等をした児童生徒に対し、前籍校が行う支援

- 転学先の学校（在籍校）が教育を行うこととなるが、多くの前籍校において、復籍を見据えた病状等の実態把握や相談支援、退院後自宅療養中の学習指導などの取組を行っている。

【一時転学等をしている児童生徒に対する学校の取組（小・中学校の場合）】

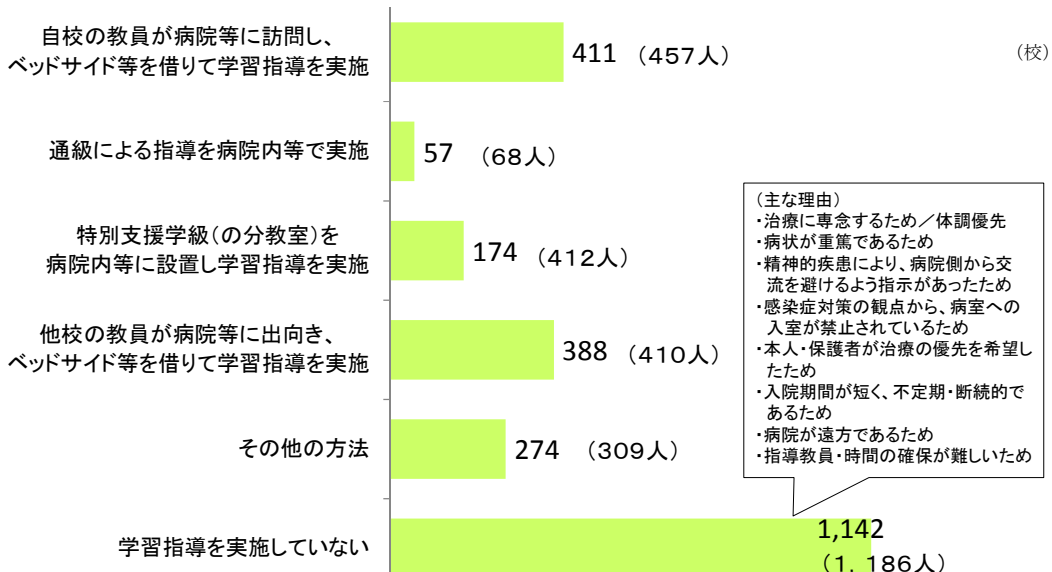


※割合は、平成 25 年 5 月 1 日時点の全小・中学校数に占める割合（出典：「学校基本統計」（文部科学省））

### 4. 長期入院した児童生徒に対し、在籍校が行う支援

- 長期入院した児童生徒への学習指導は自校の教員が病院を訪問する形式が多いが、その実施頻度等は、小・中学校及び高等学校の場合、週一日以下、一日 75 分未満が過半数を占める。特別支援学校では、他の学校種よりも実施頻度、時間ともにやや多い。
- 長期入院した児童生徒の約半数には、在籍校による学習指導が行われていない。その理由として、治療に専念するためや病院側からの指示・感染症対策のほか、指導教員・時間の確保が難しいことや病院が遠方であること等が上げられた。

【病気やけがにより長期入院した児童生徒に対する学習指導（小・中学校の場合）】



※小・中学校における病気やけがにより長期入院した児童生徒数は延べ 2,769 人